

U.S. Indicators

発表日: 2021 年 8 月 24 日(火)

米国 8 月 PMI は 7-9 月期の成長鈍化を示唆

～インフレ圧力はさらに強く～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治 (Tel: 03-5221-5001)

21 年 8 月の IHS マークイット米国総合購買担当者指数 (PMI) の速報値は、55.4 と前月比 4.5% p 低下した。製造業が 61.2 と前月比 1.9% p 低下したうえ、サービス業が 55.2 と前月比 4.7% p 低下した。労働力不足、原材料不足、デルタ変異株の感染拡大、サプライチェーンの混乱の影響等によって低下した。もっとも、拡大縮小の分岐点 50 を上回って高い水準を維持していることから、経済成長率がこれまでの異常に高い伸びから巡航速度に向けて鈍化していることを示しているだけである。また、先行きを占ううえで重要な新規受注が 55.4 と高い水準を維持していることから、FRB の想定範囲内でのスピード調整と判断される。

なお、速報値は集計期間が 8 月 12 日～20 日と 8 月中旬までの企業の状況を示しており、デルタ変異株の感染拡大によって 8 月末にかけて企業活動がより鈍化していると考えられ、確報値で下方修正されると見込まれる。

製造業 PMI の構成項目をみると、新規受注が 61.9 (前月 64.4)、生産が 56.3 (前月 59.5)、雇用が 52.8 (前月 55.4)、在庫が 54.0 (前月 55.3) と低下した。寄与度では、入荷遅延が前月比 +0.29% p の押し上げ寄与となった一方、生産が前月比 ▲0.79% p、新規受注が前月比 ▲0.74% p、雇用が前月比 ▲0.54% p、在庫が前月比 ▲0.13% p の押し下げ寄与となった。また、サブ項目では輸出受注が 53.6 (前月 54.8) と小幅低下したが、輸出の拡大を示す水準を維持している。

サービス業では、活動指数が 55.2 (前月 59.8)、新規受注が 54.2 (前月 58.2) と低下したが、50 を大幅に上回っている。また、雇用は 50.8 (前月 53.4) と小幅の雇用増加を示唆する水準を維持した。一方、見通しを示す「将来の活動指数」が 69.3 (前月 66.4) と上昇し、高水準を維持しており、企業は先行きに対する楽観的な見方を強めている。

雇用に関して、8 月の雇用指数が製造業、サービス業ともに低下しており、8 月の民間雇用者の増加ペース鈍化を示唆している。

インフレについては、製造業、サービス業ともに算出価格指数が小幅上昇し、過去最高水準付近で高止まりしており、インフレ圧力が強いままであることを示している。

7-9 月期の景気指数では、製造業が 61.2 (4-6 月期 62.4)、サービス業が 55.2 (同 65.0) とサービス業主導で総合指数が 55.4 と 4-6 月期の 64.1 から 8.7% p 低下し、同期の民間部門の成長減速を示している。

(図表) 米国購買担当者指数 (PMI) の推移



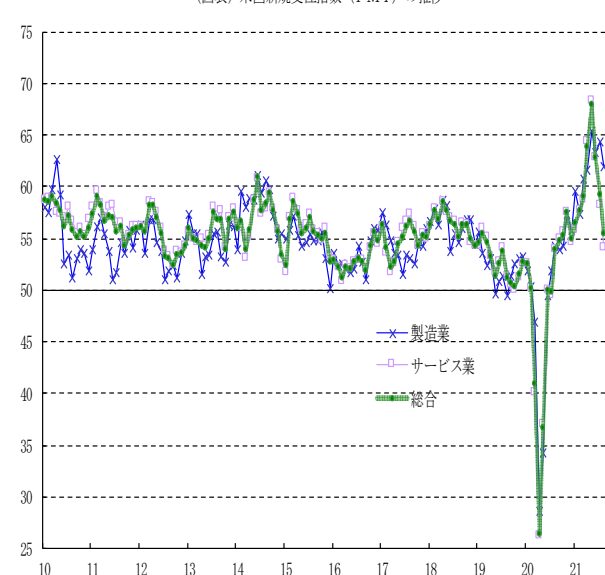
(出所) IHS Markit

(図表) 米国生産・活動指数の推移



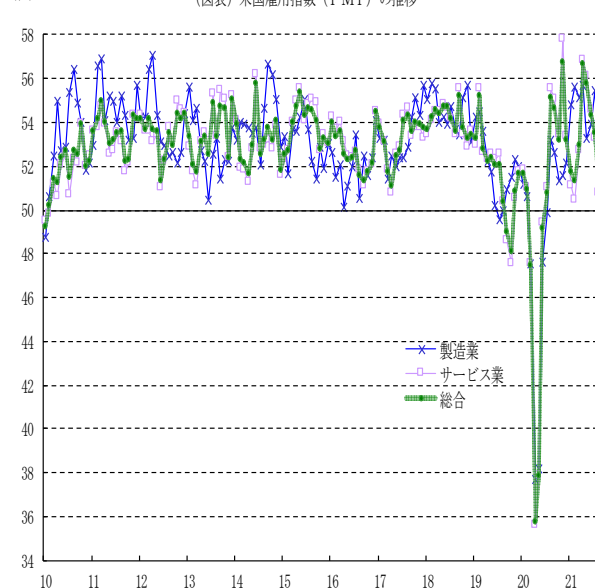
(出所) IHS Markit

(図表) 米国新規受注指数 (PMI) の推移



(出所) IHS Markit

(図表) 米国雇用指数 (PMI) の推移



(出所) IHS Markit

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

